

連系線 6.6kV 三相3線

ご契約名義 九電 太郎

〔連系区分〕高圧配電線、**特別高圧配電線**

保護装置関連設備のチェック項目		判定基準	チェック結果（電力会社）	
			補足説明	適・否
C	CT飽和	・構内最大短絡電流で飽和しないこと。		
	CT設置位置	・受電用CBの前後（受電用Trの高圧側）いずれかに設置すること。 ・RPR用CTは、1バンク受電のように分岐回路がなければ受電用Trの低圧側設置とできる。		
V	VT装置位置	・受電用Trの高圧側母線に設置すること。 ・ただし、距離リレーの電圧要素メモリ対策として低圧側母線VTとすることもできる。		
	零相電圧検出方法	・高圧及び特高の配電線と連系する場合は、CVT検出方式とすること。 ・高圧及び特高の配電線連系以外は、GPT3次巻線（オープンデルタ）でも良い。		
C	解列箇所	・次のいずれかの箇所とする。 受電用遮断器 発電設備出力端遮断器 発電設備連絡用遮断器 母線連絡用遮断器		
制御電源	専用直流回路	・直流電源（バッテリー）からNFB等を介して専用に分配する回路のものであること。 ・低圧連系は、停電補償等により信頼性が確保されたものについては、商用電源を使用できる。		
線路無電圧確認装置	線路無電圧確認装置省略	・高圧または特高連系は、LPD設置が必要であるが、次のいずれかの場合はLPDを省略できる。 Ry、CT、VT、CB、制御電源配線のすべてが二系列設置されており、これが互いにバックアップ可能となっていること。（逆潮流のない特高及び高圧） 転送遮断装置及び単独運転検出機能又は、逆電力継電装置及び単独運転検出機能あるいは、単独運転検出機能を二方式以上設置し、遮断箇所を二箇所以上とする場合。（高圧） 専用線による連系であって、自動再開路を必要としない場合。（高圧）		

適： 、 否： ×

お客さま記入欄

1. 単線結線図（記載内容）
- ・受電変圧器のインピーダンス
  - ・CT、VTのレシオ・定格負担・CT過電流定数・MOF（VCT）の位置
  - ・保護システムを主体に記入すること。
  - ・CTに接続されているリレー、メータ及びケーブルの実負担を記入すること。

CT情報を記入ください。

どうしても分からない場合は、概算の合計値だけを記入ください。

〔CT仕様〕

項目	データ
変流比	150 / 5 A
過電流定数	10 < h
過電流強度	10倍
定格負担	40VA

〔CTの実負担〕

項目	データ
リレー負担	5 VA
計測器負担	5 VA
ケーブル負担	5 VA
計	15VA

遮断器の定格遮断容量 = 15kA

遮断器の定格遮断容量を記載ください。

〔受電用変圧器の諸元〕

項目	電灯用150kVA	動力用100kVA (太陽光発電機連系Tr)
容量ベースの%Z	2.71%	1.52%
励磁突入電流	10倍	25倍

受電用変圧器の諸元を記載ください。

構内充電電流値 = 0.4A

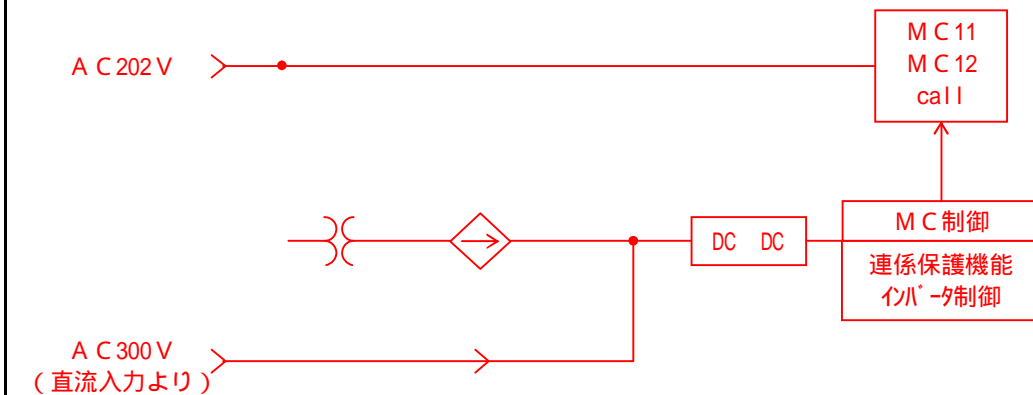
分かれば記載ください（不明な場合は不明と記載ください）。

OCRのメーカー： 、 型番：K2GA-D（動作時間特性曲線は別添）

OCRまたはPPのメーカー名、型番を記載し、動作時間特性曲線を別添してください。

2. 制御電源回路

直流電源から専用回路でリレーの制御電源が確保できていることを示す回路図及び説明を記載ください。



3. 特記事項、その他